

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：13901

研究種目：奨励研究

研究期間：2020～2020

課題番号：20H00792

研究課題名 古典教育における読解リテラシー向上の統合的研究 文学研究と教育心理学を柱として

研究代表者

加藤 直志 (Kato, Tadashi)

名古屋大学・教育学部附属学校・国立中学校・高等学校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 450,000円

研究成果の概要：近年、古典を学ぶ意義を見出しにくいといった指摘がある。その課題に応えるためには、古典を学ぶ意義について理解を深め、口語訳を完成させて終わるのではなく、テキストの読みを深め、それを他者に説明できる力(古典教育における読解リテラシー)を育成することが重要であるという仮説を立てた。それに基づき、大学教員とも協力しながら、教育心理学を援用した授業や、くずし字や和本による古典教材の開発・実践を行った。中学・高校の両方で取り組むことで、これまでも取り組んできた成果をさらに蓄積、統合することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育心理学を援用した「協同的探究学習」の実践を続けた。本研究の研究協力者である藤村宣之氏（東京大学教授）の提唱する「わかる学力」の向上を目指す上で、有益な蓄積が得られた。また、同じく研究協力者である加藤弓枝氏（鶴見大学教授）、三宅宏幸氏（愛知県立大学准教授）とともに、くずし字による古典教育にも取り組んだ。これらについては、他校でも実践が行われている。本研究の成果が、我が国全体の教育にも生かされているといえ、その学術的・社会的意義は大きい。

研究分野：国語科教育および日本文学

キーワード：協同的探究学習 わかる学力 古典教育 くずし字 和本リテラシー 古典教材開発

1. 研究の目的

自身の考えを他者に伝えることや、古典学習の意義を伝えることの必要性などが、昨今の国語科教育において求められている。研究代表者は、大学教員とも協力しながら、論理的に考え、表現力を高めるための指導や、くずし字や和本を用いた古典教育において、実践的研究を続けてきた。これらを継続、蓄積することで、単年度の研究では明らかになりにくい、中学・高校6年間を見通した系統的な学びのあり方を探ることが、本研究の目的であった。

2. 研究成果

新型コロナウイルス感染症による休校措置の解除以降、研究代表者が担当した中学2年生の国語や高校1年生の国語総合、SS 課題研究(学校設定科目)において、授業実践や教材開発を継続的に行った。

感染症対策のため、生徒相互の対面での話し合いの機会を限定せざるをえなくなった。「論理的に考え、表現力を高めるための指導」においては、協同的な学習が行いにくくなった。しかしながら、生徒相互の話し合いを必要最小限に控えながらも、電子黒板を用いての授業を行うなど、代替策を実践できたのは、思わぬ研究成果といえる。中学校と高校の双方で行うことが出来たため、校種による違いをより明らかにすることができた。今後、勤務先が主催する研究会などで報告したいと考えている。

「くずし字や和本を用いた古典教育」においても、日本近世文学会による出前授業を行う際、講師が来校せず、オンラインで出前授業を行った。江戸時代の版本を用いた古典教材を高校生向けに開発し、実際に授業で使用した。オンラインでの開催実績を作ったことにより、今後、感染症収束後も、離島や遠隔地など、近隣に大学教員がいない地域の学校でも、同種の出前授業を実施しやすくなる可能性を開くことができたのが、研究成果である。これらの研究については、第1回古典教材の未来を切り開く！研究会(2020年9月13日・オンライン)、同志社大学古典教材開発研究センター設立記念研究集会(2021年3月28日・オンライン)で報告した。今後、勤務先の紀要などでも公表していく予定である。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 加藤直志	4. 巻 95
2. 論文標題 国語科における古典教育の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社国文学	6. 最初と最後の頁 54-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸	4. 巻 65
2. 論文標題 くずし字による古典教育の試み（5）－江戸時代の「桃太郎」を読む・補遺－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要	6. 最初と最後の頁 204-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/bulsea65.204	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加藤直志
2. 発表標題 国語科における古典教育の現状と課題
3. 学会等名 「古典教材の未来を切り拓く！」研究会 第1回 オンライン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤直志
2. 発表標題 教科書との接続を意識した、オンライン授業の実践例 くずし字による古典教育の試み（6）－
3. 学会等名 同志社大学古典教材開発研究センター設立記念研究集会「古典教材開発の課題と可能性」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科 + 千葉軒士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 「書くこと」の授業をつくるー中・高・大で教える『はじめよう、ロジカル・ライティング』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
藤村 宣之	(Fujimura Nobuyuki)
加藤 弓枝	(Kato Yumie)
三宅 宏幸	(Miyake Hiroyuki)